

# アカデミー通信

発行所: アカデミー学院  
責任者: 舟田 謙二  
254-0903 平塚市河内 520-1  
TEL 31-6831 FAX 35-1690  
URL <http://www.academygakuin.com>  
HOTLINE: [jfunada@gmail.com](mailto:jfunada@gmail.com)

## 中間テスト対策はこれでバッチリ

中学生は前期中間テストが6月に行われます。まだ先だと思いかもしれませんが、テスト対策を十分にするには1か月前から勉強を始める必要があります。もちろん日頃の授業でしっかりと学習している上で、という前提ですが。

①まず授業がベース 何を学んだかテキストを見て復習 授業の中で先生が言ったことや、取ったノートの内容はわかっていたつもりでも、人は学んだことを24時間以内になんと74%も忘れてしまいます。復習しないのではたつたの2割程度。つまりほとんど忘れてしまうという事です。せつかく勉強したのにこれではもったいないではありませんか。

②基本をしっかり押さえる 英単語の意味やスペリング、漢字、計算、理科・社会の用語など基本は確実にできるようにしておきましょう。

③問題演習を通して覚える 授業で説明を聞いて、あるいは教科書やワークを見てわかったつもりでも、いざ問題を解くとできない、ということがよくあります。

④自分の弱点をつぶす わからなかったところや、間違えたところは必ず赤ペンやマーカーを使って目立つように書き、その弱点を繰り返すことにより弱点をつぶしていきま。

⑤ノートにまとめる 知識の整理のために、教科書や参考書などを調べ、自分なりに図を描いたりしてまとめましょう。ただしテスト直前は実践的な演習に時間を割くこと。

⑥過去問を解く テスト範囲は広いので、実践的な総合問題を必ず解くこと。一回で満足せず、満点が取れるようになるまで何度もくり返す。

⑦補習を活用する アカデミー学院には年間300時間以上先生付きの無料補習があります。わからないところは補習で解決！納得いくまで教えてもらい、自信のない単元は問題を出してもらいできるよになるまで演習しましょう。

⑧問題演習を通して覚える 授業で説明を聞いて、あるいは教科書やワークを見てわかったつもりでも、いざ問題を解くとできない、ということがよくあります。

## 学びを楽しく!

いじめの原因は思っているよりも多い。それは放課後か土曜日の休日を知らずにいるから。神奈川新聞の「読売KODOMO新聞」を使って、読売KODOMO新聞を使って、4月28日の授業では、福島の原子力発電所の事故から、他県に避難した子どもたちが直面している問題がテーマに、「読売KODOMO新聞」を題材に、読売KODOMO新聞の活用を提案した。

平塚・アカデミー学院 記事をテーマに作文

読んでます

「いま、日本では、読売KODOMO新聞を利用して授業を行う学習塾（4月28日、神奈川新聞）で、読売KODOMO新聞の活用を提案した。」

「日本では、読売KODOMO新聞を利用して授業を行う学習塾（4月28日、神奈川新聞）で、読売KODOMO新聞の活用を提案した。」

「読売KoDoMo新聞」にアカデミー学院が紹介

読売新聞では小学生対象の読売KODOMO新聞、中学生対象の読売中高生新聞を発売しています。いずれもお勧めの新しい、楽しい勉強法です。これまでの入試は知識偏重の側面が強く、いかに人より多くの知識を有しているかが焦点でした。でも、今や知識はコンピューターやAI(人工知能)が代わってくれる時代。複雑化し、グローバル化した社会を生きていくためには思考力や判断力、表現力といった、これまでの入試では測り切れない能力を高めねばなりません。この流れで今、大学入試を変えようとしています。大学入試がかわれば、中学・高校の授業内容も変わり、引いては中学入試も変わります。大学入試改革を先取りしたような問題が今年、私立難関校の開成中学に出て話題になりました。企業の現場で日常話題になっているような問題

## 苦手克服法

生徒に好きな教科と嫌いな教科を尋ね、その理由を聞く。とみんな口を揃えて、「分かるから、できるから好き」「分からないから、できないから嫌い」と答えます。当たり前と言えども、ここに苦手の鍵があります。古代ローマの哲学者・セネカ(B.C.46)は次のように言いました。「私たちは難しいからやろうとしないのではない。むしろ、やろうとしないから難しくなる」と。

子どもたちを見ると、好きな教科はいくらでも勉強します。たくさん勉強するので、ますますできるようになります。一方、嫌いな教科はあと延ばしにしてなかなか勉強しようとしません。勉強しないので、よけいに分からなくなり、さらに嫌いになるという悪循環になっていきます。



「餅は餅屋」ということわざがあります。今はスーパーでパックしたお餅を年中売っていますが、昔は年末になるとこの家で餅をついていました。でも、忙しい時期なので餅がつかない家もあって、江戸時代には家に出張してお餅をついてくれる餅屋さんがいました。専門の餅屋なので鏡餅から丸餅、角餅など、とても美味しく作ってくれました。ここから、「専門家に任せるのが一番」という意味で使われるようになりました。アカデミーにはそれぞれの教科を専門とする先生がいるので、集団で5教科を学びながら苦手教科があつたらいづつでもその教科を個別で学ぶことができ、というとてもユニークなコースがいくつもあり、生徒一人ひとりのニーズに答えることができます。ぜひ活用してください。